

＜薬効別医薬品売上特集＞

薬効別医薬品売上ランキング 2002 (4)

今回は抗生物質についてランキングをまとめた。

抗生物質

抗生物質は、先進諸国で、マイナス傾向の市場である。特に2002年は、トップ製品であるグラクソ・スミスクラインのオーグメンチンのジェネリックが登場したこと、ニューキノロン剤トップのシプロキサシ（米名シプロ）が、炭疽菌の特需減少とリーバキンの増加で28%減となったことが大きく影響した。次の表（2002年の売上1億ドル未満は次頁）を見るとわかるように、3億ドル以上の上位品目で2桁伸びたものは皆無であり、その下の2億ドル台の製品で、バイエルのアベロックスが55%増（2.94億ドル）、アストラゼネカのメレム（住友製薬のメロペン）が26%増、アベンティスのタバニックが39%増、タゴシッドが18%増、ファルマシアのザイボックスが84%増の約2億ドルとなったのが目立つ程度である。

抗生物質ランキング

ブランド名	一般名	販売メーカー	百万ドル		百万ドル		百万ドル		種類
			2002	前期比	2001	前期比	2000		
オーグメンチン	アキツリツ+クラブ ラン酸カリム	GSK	1,911	-14%	2,046	13%	1,853	複合ペニシリン	
ジスロマックス	アジスロマイシン	ファイザー	1,516	1%	1,506	9%	1,382	マクロライド系	
シプロキサシ	シプロフロキサシン	バイエル	1,479	-28%	1,740	10%	1,682	ニューキノロン剤	
ロセフィン	セフトリアキソン	ロシュ	1,117	-2%	1,015	-1%	1,062	セフェム系注射剤	
パイアキシン(ケリス)	クラリスロマイシン	アボット	1,102	-5%	1,159	-7%	1,242	マクロライド系	
リーバキン/ワキツ計	レボフロキサシン	J&J	1,032	-2%	1,052	-3%	1,089	ニューキノロン剤	
クラビット国内+輸出	レボフロキサシン	第一製薬	611	-3%	568	13%	576	ニューキノロン剤	
プリマキシン (キナム)	シラスロマイシン	メルク	585	0%	585	0%	585	カルバペネム系注射剤	
ゾシン/タゾシン	ピペラシリン+タゾバクタム	ワイス	406	-8%	427	11%	385	複合ペニシリン	
ジナート/オラセフ/セフゾ	セフトロキサシム	GSK	390	-39%	589	-7%	654	セフェム系	
セフジル	セフプロジル	BMS	338	-7%	363	-7%	391	セフェム系	
フォータム/モダシン	セフトロキサシム	GSK	322	-1%	300	-2%	324	セフェム系注射剤	
アベロックス	モキシフロキサシン	バイエル	294	55%	160	37%	124	ニューキノロン剤	
フロモックス	塩酸セフトロキサシム	塩野義製薬	289	2%	256	13%	260	セフェム系	
メレム (メロペン)	メロペネム三水和物	アストラゼネカ	285	26%	227	34%	170	カルバペネム系注射剤	
クレオシン/ダラシン	クリンダマイシン	ファルマシア	273	-14%	316	-7%	340	リンコマイシン系	
タバニック	レボフロキサシン	アベンティス	269	39%	170	49%	129	ニューキノロン剤	
セフゾン (輸出含む)	セフジニル	藤沢薬品工業	248	4%	217	-2%	254	セフェム系	
タゴシッド	テイコプラニン	アベンティス	233	18%	176	13%	179	ペプチド系	
クラリス	クラリスロマイシン	大正製薬	229	5%	198	11%	203	マクロライド系	
バンコマイシン	塩酸バンコマイシン	リリー	222	5%	211	3%	205	ペプチド系	
アモキシシ	アモキシシリン	GSK	218	-5%	215	-26%	302	ペニシリン系	
バクトロバン(一部推定)	ムピロシム加水和物	GSK	212	-4%	211	15%	184	その他(MRSA除菌用)	
ザイボックス	リネゾリド	ファルマシア	199	84%	108	125%	48	オキサゾリジノン系	
テクイン	ガチフロキサシ	BMS	184	-26%	250	91%	131	ニューキノロン剤	
フルマリ	フルモキシセフトロキサシム	塩野義製薬	181	-8%	178	9%	186	オキサセフェム系注射剤	
塩酸バンコマイシン(日)	塩酸バンコマイシン	塩野義製薬	164	-8%	160	-4%	191	ペプチド系	
クラリシッド (日)	クラリスロマイシン	大日本製薬	164	2%	146	11%	150	マクロライド系	
オムニセフ(セフゾン)	セフジニル	アボット	157	75%	90	109%	43	セフェム系	
メイアクト	セフトロキサシム	明治製薬	154	-4%	146	3%	162	セフェム系	
メロペン(日+海外)	メロペネム三水和物	住友製薬	151	-1%	138	34%	118	カルバペネム系注射剤	
パンスポリン	塩酸セフトロキサシム	武田薬品工業	139	-15%	149	-5%	180	セフェム系	
ベンザマイシン(皮膚用)	ベンザマイシン	タケダ	132	-27%	182	-2%	186	マクロライド系	
ミノシン(ミノマイ)	塩酸ミノサイクリン	ワイス	117	-4%	122	-17%	147	テトラサイクリン系	
チエナム	カルバペネム系配合剤	万有製薬	111	-15%	117	-3%	139	カルバペネム系注射剤	
パナン (日+海外)	セフトロキサシム	三共	109	-6%	104	-2%	122	セフェム系	

セファメジン	セファゾリンナリウム	藤沢薬品工業	84	-13%	88	-3%	103	セフェム系注射剤
ガチフロ	ガチフロキサシン	杏林製薬	83	0%	75	78%	48	ニューキノロン剤
カルベニン	カルベナム	三共	81	-8%	79	2%	89	カルバペネム系注射剤
マキシビーム	セフィビーム	エラン	79	-8%	86	70%	51	セフェム系注射剤
ホスミシン	ホスホマイシン	明治製菓	75	-14%	79	-18%	111	その他
セフスパン	セフィキシム	藤沢薬品工業	74	-5%	71	-4%	85	セフェム系
ファーストシン	塩酸セフォゾラン	武田薬品工業	73	-8%	72	1%	82	セフェム系注射剤
モヌリル (伊)	モヌリル	ザンボングループ	53	8%	43	26%	36	その他
ハベカシン	硫酸アルベカシン	明治製菓	53	-17%	58	-13%	76	アミノグリコシド系
ケフール	セファクロル	塩野義製薬	52	-23%	62	-18%	87	セフェム系
タリビッド(日+輸出)	オフロキサシン	第一製薬	51	-28%	64	-3%	75	ニューキノロン剤
ミノマイシン	塩酸ミノサイクリン	武田薬品工業	49	-13%	51	-1%	59	テトラサイクリン系
トミロン	セフトラピボキシル	富山化学	48	-22%	56	-4%	66	セフェム系
ベントシリン	ピペラシリンナリウム	富山化学	48	-18%	53	-8%	66	ペニシリン系
タゴシッド (日)	テイコプラニン	藤沢薬品工業	43	264%	11			グリコペプチド系注射剤
マキシビーム (日)	塩酸セフェピム	アリスト製薬	38	13%	31	-8%	38	セフェム系注射剤
ファロム	フロロベナムナリウム	山之内製薬	35	-14%	37	-23%	56	ベネム系
アザクタム	アズトレオナム注	エラン	33	-29%	46	28%	36	モノバクタム系注射剤
オゼックス	トル酸スロキサシン	富山化学	31	-30%	40	10%	42	ニューキノロン剤
プロアクト	硫酸セフピロム	塩野義製薬	30	-13%	31	-9%	38	セフェム系注射剤
モダシン (日)	セフトラジジム	田辺製薬	30	-8%	29	-7%	36	セフェム系注射剤
ルリッド (日)	ロキシロマイシン	エーザイ	30	-5%	28	0%	32	マクロライド系
バクシダール	ノルフロキサシン	杏林製薬	23	-23%	27	-22%	39	ニューキノロン剤
セフテム(日+輸出)	セフチブテン	塩野義製薬	18	-40%	28	19%	27	セフェム系
オメガシン	ピアベナム	明治製菓	17	NEW				カルバペネム系注射剤
ケイテン	硫酸セフピロム	藤沢(O1前は中外)	15	-	15	-23%	23	セフェム系注射剤
インバンツ	エルタベナム・ナリウム	メルク	15	NEW				ベネム系
イソセフ (伊) (セフテム)	セフチブテン	レコルダチ	14	0%	12	23%	10	セフェム系
エクサシン	硫酸イセバマイシン	旭化成	14	-11%				アミノグリコシド系
ティエジム (ノ化)	セフォジジムナリウム	レコルダチ	12	-6%	11	-7%	12	セフェム系注射剤
リカマイシン	ロキタマイシン	旭化成	10	-14%				マクロライド系
ケフレックス (日)	セファレキシン	塩野義製薬	9	-8%	9	-14%	12	セフェム系
タゾシン (日)	タゾキサシン	富山化学	5	43%	3	NEW		複合ペニシリン
バズクロス	バズフロキサシン	三菱ケルファマ	3	NEW				ニューキノロン剤
シナシッド	ダクトリシン	アベンティス	NA(キング製薬へ)		29	-26%	41	ストレプトグラミン系
ロラビッド	ロラカルベフ	キング製薬	NA		39	-5%	41	カルバセフェム
パニマイシン (日)	硫酸ジベカシン	明治製菓	NA		9	-20%	13	アミノグリコシド系
マキシビーム (日)	塩酸セフェピム	明治製菓	NA		9	-27%	13	セフェム系注射剤
オーツカCEZ注 (日)	セファゾリンナリウム	大塚製薬	NA		15	1%	17	セフェム系注射剤
ミオカマイシン	酢酸ミデカマイシン	明治製菓	NA		13	-15%	17	マクロライド系
アモデックス (伊)	アモキシシリン	レコルダチ	NA		6	-18%	8	ペニシリン系
セクロール(ケフール)	セファクロル	リリー	NA(バテント切れ)		232	-19%	285	セフェム系
パレオン	塩酸ロメフロキサシン	北陸製薬	NA		18	-21%	25	ニューキノロン剤
合計			16,871	-2%	17,261	0%	17,277	
<抗生物質の米ジェネリック売上>								
セファレキシン	ジェネリック	米小売売上	449		420		379	
アモキシシリン	ジェネリック	米小売売上	341		495		445	
セフロキシム	ジェネリック	米小売売上	137					
セファクロル	ジェネリック	米小売売上	58		78		95	
セファドロキシル	ジェネリック	米小売売上	65		72		72	
クリンダマイシン	ジェネリック	米小売売上	83		65		34	
小計			1,133		1,130		1,025	

抗生物質は日本のメーカーも強く、表には多くの日本のメーカーが入っているが、欧米のメーカーは売上が2億ドルか1億ドルを割ると、ほとんど公表しなくなるため、公表された製品全体では、2001年より2%減少して、170億円を割っている。それでも、1億ドル以上の製品だけで見ると、売上合計は、2001年の155億9700万ドルから、2002年は155億4200万ドルとなっており、ほぼ横ばいだった。ただし、これらはいずれも各年の年末の為替レートで換算しており、ユーロや円のドル換

算数字は2001年より増えているため、実際には上位品目もマイナスだったということになる。

欧米諸国の場合、抗生物質のブランド品は非常に高いので、パテントが切れると、他の慢性疾患薬以上にジェネリックが多く使われるようになっている。例えばアメリカにおけるセフェム系抗生物質の場合、処方箋の70%近くがジェネリックとなっている。アボットのオムニセフ（藤沢のセフゾン）が75%増と好調だが、オムニセフ（300mg）は20カプセルで80ドル強するため、保険会社としては、その他のいろいろなジェネリック（処方箋1枚当たり平均28ドル程度）を優先するのは当然であろう。ただし中には、ジェネリックと言っても、昨年9月に登場したセファクロルCR（1日2回の徐放剤、日本のブランド品はL-ケフラルで顆粒だが、米は錠剤）のように、20錠が90ドルもするものもある。

米の抗生物質市場の状況（2002年）をまとめると、次のようになる。

- **セフェム系**は70%弱がジェネリックで、2位のセフジル（ブリストル・マイヤーズスクイブ）が12%程度。
- **キノロン系**はトップだったシプロ（シプロキサ）が下降傾向で、2002年にはシプロとリーバキン（クラビット）がいずれも約40%で並んだ。残りはテクイン（日本名ガチフロ）とアベロックス（シプロと同じくバイエルの製品）でほとんどを占めるが、副作用問題でテクインが減少し、アベロックスが伸びている。
- **マクロライド系**はジスロマックスが70%以上の寡占状態にあり、アボットのバイアキシ（クラリス）は徐放剤を合わせて18%程度。
- **ペニシリン製剤**はジェネリックが70%を超え、オーグメンチンのパテント切れで増加傾向。オーグメンチンは2001年には25%のシェアがあったが、2002年は17%程度に減少した。現在はさらに減少している。

このうち、売上の大きいシプロは今年12月にジェネリックが登場する見込みで、2004年は大幅に減少すると思われる。シプロは徐放剤のXR500mg錠が出ているものの、20錠で160ドル近くして、非常に高い。

現在のように、オーグメンチンの多くがジェネリックとなり、今年終わりにシプロのジェネリックが登場すれば、米の抗生物質市場は縮小が見込まれるが、最近の傾向としては、医師が最初から強い抗生物質を処方することも増えつつある。最初は安価なジェネリックしか処方できない保険もあるが、感染症によっては、最初から効果の高い高額なブランド品を使う医師も増えてきている点は、ブランドメーカーにとっては、歓迎すべき状況といえる。

一方、日本においては、病院で使われる注射剤がジェネリックに切り替わる傾向にあり、DPCの導入で今後はますます注射抗生物質市場が縮小すると見込まれる。PF